※文字の大きさは Meiryo UI ／12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、（写真 1）（表 1）などと文中に記載し、右ページに（写真 1）（表 1）などと表記の上、貼り付けてください。
※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
※いずれの場合も、必ずＡ３片面１枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは５MB 以下としてください。

※事務局記入欄
No. A-43

【様式２】

部門名：
カリキュラム・マネジメント実践部門

エントリー名：
広島県呉市立広南中学校

活動名：
小中一貫で資質・能力育成　～社会に開かれた教育課程で未来創造～

解決すべき課題

1 「将来の夢や目標をもっている生徒」，「挑戦心をもつ生徒」が少ない。（平成 26 年度）（図 1）
2 地域の少子高齢化の中で，地域と協働し未来を創るふるさとづくりが期待されている。
3 生徒は，これまでの地域の方に感謝，貢献することに加え，共に何かを創り出したいと願っている。
4 教職員全員が，目標の実現に向けて小中一貫してカリキュラムをデザインする力が求められる。

目標・方針：

1 目標　社会に開かれた教育課程で学園教育目標「未来を創る」（資質・能力）を実現
2 方針 H27 年度　　学園教育目標の見直しと資質・能力の設定（図 2）
H28～29 年度　７つの資質・能力の育成に向けて，創造的な活動（イノベーションの原体験）の充実（総合的な学習の時間を核とする「課題発見・解決学習」の単元開発）
H30 年度～　　学校を核として地域が元気になるカリキュラムの創造（＋１action 改善）

活動内容：

1 学園教育目標の実現を目指す資質・能力の設定と評価規準・基準の設定
2 「挑戦問題」から始まる「貫きカリキュラム」（志を抱く→準備をする→挑戦する→振り返る）の開発・改善（図３，４）**Point 1**「貫きカリキュラム」：問題解決の過程を生徒の思考の流れの軸で貫いたカリキュラム
3 **Point 2** 教育活動全体を「志→準備→挑戦」の軸で貫いた学びの地図カリキュラムマップの作成（図 5）
4 **Point 3** 総合的な学習の時間を核に教科等横断的・学校段階間接続した地域と協働するカリキュラム
１年：人生の視野を広げる「ビブリオトーク」，人を楽しませることのできる新たな自分づくり「落語」
２年：職場体験とふるさとを題材にした起業による社会貢献「起業企画」
３年：ふるさとの未来に貢献する「防災の創作劇」
１２年：地域を題材に協働して科学的な探究の方法を学ぶ「科学研究」等．（図 6）

活動の成果：

○４年間の実践で，生徒の課題「夢や目標をもつ生徒の割合」は，68%から 94.1%と増加，「失敗を恐れずに挑戦する生徒の割合」も，64.0%から 82.3%と増加し，課題の克服に成功した。（図 7）
○生徒は，地域の人を笑顔にしたい，地域に貢献したい気持ちを強く持ち，自ら行動できるようになった。
※生徒の声「私たちの創作劇に，地域の人が涙を流して「ありがとう」と言ってくれた。3 年生みんなの感謝の気持ちが伝わったと思います。」，「落語のおかけで努力することの大切さを学んだ。楽しんでもらえて良かった。」
○地域は，生徒と共に創り出すことを通して，やりがいを持ち，未来を創る生徒を応援するようになった。
※地域の声「たくさんの経験をして広南の子は幸せだな。私も未来を創る子供たちに関われたよ。」
○教職員は，地域協働を意識して，カリキュラムをデザインし，「貫きカリキュラム」を開発・改善できた。

アピールポイント（アイディアや工夫）：

○「挑戦問題（志）」から始まり，「準備させる（かなえる力を鍛える）」，「挑戦させる」，そして「振り返る」という考え方を軸とし，総合的な学習の時間を核に据えた各教科や特別活動等「貫きカリキュラム」の開発
○資質・能力の育成に向けて，教育活動全体を「志→準備→挑戦」で貫くカリキュラムマップを作成
○**Point4** 地域や保護者も元気が出る学校（未来を創る子供たちと学び創造する場がある開かれた学校）
○**Point5** 生徒も教職員も，協働しながら創造する厳しさと喜びを感じる教育活動に日々「挑戦！」

Research
Plan
Do
Check
Action

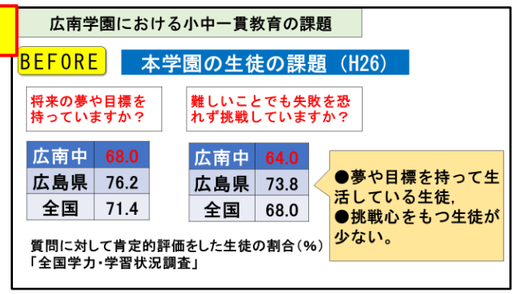

図１：本学園の課題

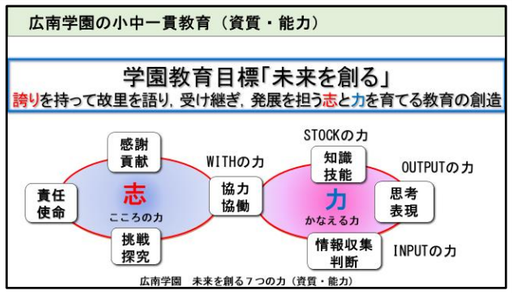

図２：学園教育目標と育成を目指す７つの資質・能力

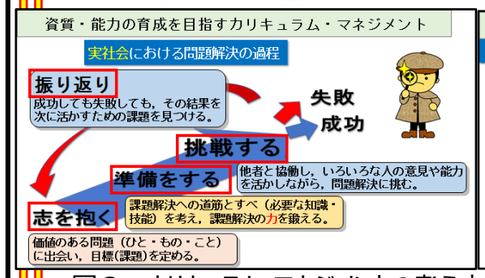

図３：カリキュラム・マネジメントの考え方

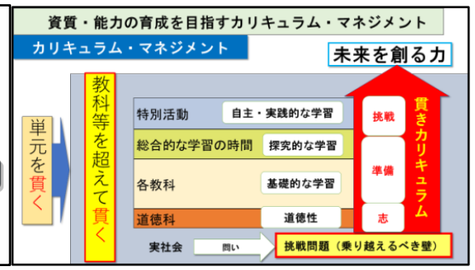

図４：「貫きカリキュラム」

図５：カリキュラムマップ

図６：「貫きカリキュラム」の具体例

図７：志と挑戦心の推移